

VALUENEX Radar QFD : 特許情報を活用した AI による QFD 自動化に関する詳細分析

Gemini Deep Research

1. エグゼクティブサマリー

VALUENEX株式会社が提供する「Radar QFD」は、特許情報を基盤とし、AI を活用して品質機能展開（QFD）プロセスにおける主要な表（課題表、技術表、品質表）の作成を自動化する、SaaS 型および受託型の解析ソリューションである¹。本ツールは、製品開発における「市場が求める価値（ニーズ）」と「実現可能な技術（シーズ）」のマッチングを効率化し、従来多大な工数と専門知識を要した QFD プロセスを短縮・支援することを目的としている³。

本レポートの分析によると、Radar QFD の技術的基盤は、VALUENEX独自のビッグデータ解析アルゴリズム（VALUENEX Radar と生成 AI の組み合わせにある¹。これにより、特許情報からニーズ（課題）とシーズ（技術）を抽出し、それらの関連性をスコアリングした品質表を自動生成する¹。競合製品と比較して、特許情報を用いた QFD 表の自動生成に特化している点が独自性として挙げられる。利用者からは、新規事業開発における新たな視点の獲得や、特許調査工数の削減といった定性的な効果が報告されている¹。

一方で、その有効性は特許データの網羅性や質に依存し、AI による解釈の偏りや精度限界といった潜在的リスクも存在する⁸。特に、「開発工数の大幅な削減」といったマーケティング上の主張については、現時点で定量的な公開データによる裏付けは限定的である。

VALUENEXの事業戦略において、Radar QFD は主力製品である VALUENEX Radarとの連携を通じて、既存顧客への付加価値提供と、研究開発部門への新たなアプローチを可能にする戦略的ツールと位置づけられる³。

総じて、Radar QFD は特許情報を活用した QFD プロセスの初期段階を自動化する革新的なアプローチを提供するが、その導入効果を最大化するには、生成された情報を専門家が批判的に評価し、他の情報源と組み合わせて活用することが不可欠である。

2. Radar QFD : 技術アーキテクチャと機能

2.1. コアコンセプト : AI と特許データによる QFD 自動化

Radar QFD の基本的な考え方は、製品開発における品質機能展開（QFD）プロセス

を、特許情報を活用して自動化・効率化することにある。QFD は、顧客の要求品質（ニーズ）を製品の技術的特性（シーズ）に変換し、開発の優先順位を決定するための体系的な手法であり、特に製造業で広く用いられている [User Query]。しかし、従来の手法では、市場ニーズの収集・整理、技術要件への変換、そしてそれらの関連性を評価する品質表の作成に、膨大な工数と深い専門知識が必要とされてきた³。

Radar QFD は、この課題に対し、公開されている特許情報を「市場ニーズ」と「技術シーズ」の代理情報として利用するアプローチを採用している。具体的には、特許文書に含まれる「発明が解決しようとする課題」を市場ニーズ（顧客要求）として捉え、「発明を実施するための形態」や「特許請求の範囲」に記載される技術的解決手段を技術シーズとして抽出・整理する³。このプロセスを AI によって自動化することで、QFD の初期段階における情報収集と構造化の負担を大幅に軽減することを目指している²。

2.2. 基盤技術：VALUENEX Radar アルゴリズムと生成 AI の統合 (Q1 への回答)

Radar QFD の技術的な核は、VALUENEX が長年培ってきた独自のビッグデータ解析アルゴリズム（VALUENEX Radar の基盤技術）と、近年の進展が著しい生成 AI 技術の組み合わせにある¹。

公開されている情報から推測される両者の役割分担は以下の通りである。まず、VALUENEX Radar のアルゴリズムが、大量の特許文書データを解析し、テキスト間の意味的な類似性に基づいてクラスタリング（グループ化）や構造化を行う³。これにより、関連性の高い特許群が特定され、分析の基盤が構築される。次に、生成 AI がこの構造化されたデータに対して適用される。生成 AI は、各特許クラスタの内容を解釈し、そこに含まれる「課題」と「技術（解決手段）」を要約・抽出し、特許特有の専門用語を一般的な技術用語に変換する役割を担うと考えられる¹。さらに、抽出された「課題」と「技術」の関係性を評価し、品質表（マトリクス）の生成とスコアリングも生成 AI が担当する⁷。

このツールの開発背景には、エンジニア出身である VALUENEX 社員（山口幹夫氏）自身の経験が反映されている¹⁴。山口氏は、従来の特許情報が研究開発の現場で必ずしも活用しやすい形式ではないという課題認識から、特許情報を階層的に整理し、AI を活用して読みやすさを向上させることで、エンジニアが直感的に理解し、活用できる形に変換することを目指した²⁴。

この技術的アプローチは、VALUENEX が持つ既存のテキスト解析技術（Radar）と最新の生成 AI を、QFD という特定のフレームワークと特許データに適用・統合した点に

特徴がある。根本的に新しい AI アルゴリズムを開発したというよりは、既存技術を特定の課題解決（QFD 自動化）のために組み合わせ、ワークフローとして最適化した点が付加価値の源泉となっている。

2.3. QFD 表の自動生成：課題表、技術表、品質表のプロセス (Q1 への回答)

Radar QFD は、その「独自の技術」を用いて、QFD プロセスで必要とされる主要な三つの表、すなわち「課題表」（ニーズや要求品質をリスト化したもの）、「技術表」（シーズや技術的要素をリスト化したもの）、そして「品質表」（課題と技術の関係性をマトリクス形式で示し、スコアリングしたもの）を自動生成する¹。

前述の通り、この自動生成プロセスは、特許文書内の特定の記述を QFD の構成要素に対応させる解釈に基づいている。特許の「課題」セクションから市場ニーズを、「技術（解決手段）」セクションから技術シーズを抽出し、それぞれを課題表と技術表として整理する²。

品質表の生成においては、抽出された課題（ニーズ）と技術（シーズ）を縦横軸にとった二次元マトリクスが作成される¹。マトリクス内の各セルには、対応する課題と技術の関連性の強さを示すスコアが付与される⁷。このスコアは、分析対象とした特許群の中で、特定の課題と特定の技術的解決策がどの程度強く結びついているか（例えば、共起頻度や意味的な関連性の強度など）を反映していると考えられる⁷。

この自動生成メカニズムは、特許文書の構造化された情報を QFD フレームワークに流し込むという点で効率的であるが、その有効性は「特許の課題＝市場ニーズ」「特許の解決手段＝技術シーズ」という解釈の妥当性に大きく依存する。この点は、後の評価セクション（第 5 章）で詳しく検討する。

2.4. 主な特徴と主張されるアウトプット特性

Radar QFD は、以下の特徴と利点を有すると主張されている。

- **効率性:** 従来の QFD プロセスと比較して、時間と工数を大幅に削減できる³。これにより、開発担当者はより創造的な業務にリソースを集中できる [User Query]。
- **データ構造と可読性:** 生成される情報は階層的に構造化されており⁷、AI によって一般的な技術用語に変換されるため、特許の専門家でなくても理解しやすい¹。アウトプットは「具体性」「可読性」「網羅性」を備え、研究開発現場ですぐに活用できることを目指している³。
- **スコアリングと可視化:** 品質表における課題と技術の関連性がスコアリングされるため、重要度の高い項目を特定しやすい²。これにより、優先的に取り組むべき開

発項目を視覚的に把握し、戦略的な意思決定、技術ロードマップ策定、事業戦略立案などを支援する³。

- **柔軟性:** 自動生成された結果に対して、利用者が手動で微調整や分類の変更を行うことも可能である⁷。

3. 競合ランドスケープ分析 (Q2 への回答)

3.1. AI を活用した特許分析・製品開発支援ツールの概観

近年、AI 技術、特に自然言語処理や機械学習、生成 AI の進化に伴い、特許情報の分析や活用を支援するツールが数多く登場している²⁵。これらのツールは、従来人手で行われていた特許調査、分類、要約、動向分析、可視化（パテントマップ作成など）といった業務を自動化・効率化し、知財戦略や研究開発戦略の策定を支援することを目的としている。

3.2. 直接的な競合候補：株式会社エムニ - AI 特許ロケット

- **企業概要:** 株式会社エムニは、京都大学大学院および東京大学松尾研究室発の AI スタートアップ企業である³⁴。
- **製品概要:** 「AI 特許ロケット」は、高精度な特許分析・特許戦略 AI ツールとして位置づけられ、特に製造業をターゲットとしている³⁴。
- **主な主張:** パテントマップを 1 時間で提供、最大 99% のコスト削減を実現すると謳っている³⁴。主な焦点は特許分析と戦略立案支援、パテントマップ生成にあるようだ。
- **機能:** 提供されている情報からは、Radar QFD のような QFD 表（特に課題×技術のマトリクス）の自動生成機能に関する具体的な記述は見当たらない³⁸。Radar QFD の QFD フレームワーク自動化とは異なり、より広範な特許戦略やマッピングに重点を置いている可能性が高い。
- **価格・ターゲット:** 価格体系は明示されていないが、製造業の企業 R&D 部門や知財部門を主なターゲットとしていると考えられる。展示会などでデモやトライアルを提供している³⁴。

3.3. 関連ツール：パテント・インテグレーション株式会社 - サマリア (Summaria)

- **企業概要:** パテント・インテグレーション株式会社が提供。
- **製品概要:** 「サマリア」は、特許文書の「読解支援」に特化した AI アシスタントサービスである³¹。
- **機能:** 特許文書の要約作成、専門用語の平易な説明、キーワードハイライト、自動分類、キーワード抽出などの機能を提供する³¹。目的は、特許文書を読む際の負荷

を軽減することにある³¹。利用者からは、スクリーニング時間や読み込み負担の大幅な削減効果（例：80%減、70%減）が報告されている⁴⁵。

- **QFD/マトリクス生成能力:** Radar QFD のように QFD 表や課題×技術マトリクスを自動生成する機能は有していないと見られる。あくまで人間が QFD プロセスに必要な情報を特許文書から理解・抽出するのを「支援」するツールである³¹。
- **価格・ターゲット:** SaaS モデルで提供され、月額 8,000 円から利用可能⁴⁵。ターゲットは知財担当者、特許実務家、研究開発者など⁴⁹。無料トライアルも提供されている⁴⁷。

3.4. その他の関連プレイヤー（例）

- **Patentfield:** AI 特許検索・分析プラットフォーム。プロフェッショナル検索、データ可視化、AI セマンティック（意味）検索、AI 分類予測機能を提供²⁵。生成 AI オプション「Patentfield AIR」では、最大 1 万件の特許群に対し、要約作成、キーワード抽出、トレンド分析、分類付与、発明評価などを一括実行できる⁵³。AIR オプションは査読時間を約 65%削減すると主張⁵⁶。無料プランと有料プラン（AIR は月額 3 万円から）がある⁵⁶。検索・分析・レビューの効率化に重点を置いており、QFD 表の自動生成に特化しているわけではない。なお、サマリアを提供するパテント・インテグレーション社から特許権侵害で訴訟を提起されている⁵⁹。
- **AI Samurai:** 特許性（新規性・進歩性）評価、先行技術調査、無効資料調査、侵害予防調査（クリアランス調査）、特許出願書類の草案作成支援を行う AI ツール²⁵。特許調査コストを最大 40%削減できると主張⁶⁰。簡易サービス「みんなの特許」（最低 5.5 万円から）と、企業向けプラットフォーム「AI Samurai ONE」（年間 360 万円/10 アカウンドから）を提供⁶¹。特許出願・評価プロセス支援が中心であり、QFD マトリクス生成機能は有していない。

3.5. 表：Radar QFD と主要競合ツールの比較分析

機能/ツール名	ベンダー	コアフォーカス	主要 AI 機能	QFD/課題×技術マトリクス生成能力	主なターゲット顧客	価格モデル（判明分）	主張される便益/指標
Radar QFD	VALUEN EX 株式	特許情報を用いた	VALUEN EX	有り（コア機能）	R&D 部門、商品	SaaS（月額/	開発工数削減（定

	会社	QFD 表（品質表等）の自動生成	Radar アルゴリズム＋生成 AI による課題・技術抽出、マトリクス生成、スコアリング		開発部門、知財部門（特に製造業）	年額、要問合せ）、受託（要問合せ）	性的）、現場で即活用可能な情報提供、新たな着眼点、調査工数削減（定性的） ¹
AI 特許 ロケット	株式会社 エムニ	高精度な特許分析・戦略支援、パテントマップ作成	生成 AI による特許分析、パテントマップ生成	不明（記載なし）	製造業の R&D/知財部門	要問合せ	パテントマップを 1 時間で提供、最大 99% コスト削減 ³⁴
サマリア (Summaria)	パテント・インテグレーション (株)	特許文書の読解支援	生成 AI による要約、用語解説、キーワード抽出、自動分類	無し	知財担当者、特許実務家、研究開発者	SaaS（月額 8,000 円～）、無料トライアルあり ⁴⁵	読解負荷軽減、スクリーニング/読み込み時間削減（例：70-80%） ⁴⁵
Patentfield AIR	Patentfield 株式会社	AI 特許検索・分析、レビュー効率化	生成 AI による要約、キーワード抽出、分類、発明評価、トレンド分析（最大 1 万件）	無し	R&D 部門、知財部門、特許事務所	SaaS（月額 3 万円～、AIR オプション）、無料トライアルあり ⁵⁶	査読プロセス時間約 65% 削減 ⁵⁶

AI Samurai ONE	株式会社 AI Samurai	特許性評価、先行技術調査、侵害予防調査、書類草案作成	AI による類似文献評価、審査シミュレーション、生成 AI による明細書ドラフト作成	無し	企業知財部、研究開発者、特許事務所	SaaS (年間 360 万円/10 アカウント～)、簡易サービスあり ⁶¹	特許調査コスト最大 40%削減 ⁶⁰
----------------------	-----------------------	----------------------------	--	----	-------------------	--	-------------------------------

3.6. 分析

上記の比較から、Radar QFD の市場における独自のポジショニングが明確になる。多くの競合ツールが特許検索の効率化、分析の高度化、文書作成支援、あるいは読解支援といった、より広範な知財業務プロセスの一部を対象としているのに対し、Radar QFD は「QFD フレームワークの自動化」という、製品開発プロセスにおける特定の課題解決に焦点を当てている。特に、特許情報から「課題表」「技術表」「品質表」という QFD の主要な成果物を直接生成する機能は、現時点では他の主要な競合ツールには見られない特徴である。この特化戦略が、Radar QFD の最大の差別化要因となっている。

4. VALUENEX Radar QFD の実践：ユースケースとパフォーマンス (Q3 & Q8 への回答)

4.1. 報告されているユーザー体験と導入事例

現時点で公開されている Radar QFD の導入事例やユーザーの声は、具体的なプロジェクト成果や定量的な効果測定よりも、定性的な評価や期待感を示すものが多い¹。

- **飲料メーカー（知的財産部門）**：新規事業開発において、Radar QFD を活用することで多様なアプローチが可能になり、従来得られなかった新たな着眼点が得られる、と評価している¹。
- **金属メーカー（研究開発部門）**：自社の研究開発活動や戦略策定において、非常に有効なツールになり得るとの期待を示している¹。
- **（特定顧客の声）**：Radar QFD が生成する品質表は技術視点で分類されており、関連特許の調査（査読）業務工数を削減し、研究所等への情報提供に役立つ、とのフィードバックがある¹。
- **（セミナー参加者等の声）**：生成される品質表は、知的財産部が研究開発現場に情

報を提供する際の粒度として適切である、との意見が複数の顧客から寄せられている¹⁴。

これらの声は、ツールが特定のニーズに応えうる可能性を示唆しているが、開発期間の短縮率や市場ニーズ合致度の向上率といった具体的な成果を示す詳細なケーススタディは、現時点では公開されていない。

4.2. 主張される便益の分析：開発効率、市場適合性 (Q8 への回答)

VALUENEX は Radar QFD に関して、いくつかの主要な便益を主張している。これらの妥当性を、収集した情報に基づいて評価する。

- 主張：「開発工数の大幅な削減」 / 「短時間で実行」³
 - 評価: QFD 表の作成、特に特許情報からのデータ収集と構造化という特定のタスクに関しては、手作業と比較して時間短縮が実現する可能性は高い。実際に、ユーザーからは関連特許の「調査業務工数削減」に役立つとの声も挙がっている¹。しかし、「大幅な削減」という主張を裏付ける定量的なデータ（例：削減率、削減時間）は、公開情報の中では見当たらない¹⁰。競合ツールである Patentfield AIR（査読時間約 65%削減⁵⁶）や AI Samurai（調査コスト最大 40%削減⁶⁰）が具体的な数値を（ベンダー主張として）提示しているのに対し、Radar QFD の効率性に関する主張は、現時点では定性的な域を出ていない。
- 主張：「現場で即活用可能な情報提供」 / 「具体性・可読性・網羅性」¹
 - 評価: この主張は、ツールの開発背景（エンジニア視点の重視）や設計思想（AI による可読性向上、構造化データ出力）によって裏付けられている⁷。特許専門家以外でも理解しやすいように一般的な技術用語へ変換する点²⁴は、研究開発現場での活用を直接的に支援する。また、知財部から研究開発部門への情報提供に適した粒度であるとのユーザーフィードバック¹⁴も、この主張の妥当性を高めている。ただし、「即活用可能」かどうかは、具体的な利用状況やユーザーの知識レベルにも依存する。
- 主張：市場適合性の向上（ニーズとシーズのマッチングを通じた暗黙的な主張）³
 - 評価: ツールは特許の「課題」を市場ニーズ、特許の「技術」を技術シーズとして結びつけることを目指している。これが成功すれば、少なくとも「特許文書に記載されたニーズとシーズ」のマッチングは向上するだろう。しかし、それが広範な「市場」全体のニーズとの適合性向上に直結するかは、特許データを市場ニーズの代理情報として用いることの妥当性（第 5 章で詳述）に依存する。この点については、さらなる検証や事例研究が必要である。

4.3. VALUENEX Radar との連携：マクロからミクロへの分析ワークフロー

Radar QFD の重要な特徴の一つは、VALUENEXの主力製品である「VALUENEX Radar」との連携である。VALUENEX Radarは、大量のテキストデータ（特許、論文、ニュースなど）を分析し、その全体像を「俯瞰図」として可視化することで、マクロな技術動向や市場構造を把握するのに用いられる¹⁹。

Radar QFD は、このマクロな分析結果を受けて、特定の技術領域や注目すべきクラスターに対して、より詳細なミクロレベルの分析を行うためのドリルダウンツールとして機能する⁷。具体的には、俯瞰図上で特定された領域に含まれる特許群を対象に、Radar QFD を用いて課題表、技術表、品質表を生成し、その領域における具体的なニーズとシーズの関係性を深く掘り下げることができる⁷。

この連携により、ユーザーは広範な技術ランドスケープの把握から、特定の有望領域における具体的な研究開発テーマの特定や戦略立案へと、シームレスに分析を進めることが可能になる。これは、特に VALUENEX Radarを既に導入している企業にとって、既存の分析基盤を拡張し、より具体的なアクションに繋げるための強力なワークフローを提供する可能性がある。

5. 評価：潜在的な限界、課題、リスク (Q4 への回答)

Radar QFD は革新的なアプローチを提供する一方で、その活用にあたってはいくつかの潜在的な限界、課題、リスクを考慮する必要がある。

5.1. 特許データへの依存性

- **網羅性と適時性:** 特許データは、市場に存在する全てのニーズ（特に、まだ言語化されていない潜在的ニーズや最新の市場トレンド）や、最新の技術動向（特許公開までのタイムラグが存在するため）を完全に網羅しているわけではない。特許情報のみに依存した場合、分析結果が不完全または時代遅れになる可能性がある [一般的知識]。
- **質と一貫性:** 特許明細書における「課題」や「解決手段」の記述の質や詳細度は、特許ごと、国ごとに大きく異なる可能性がある。AI による解釈は、この入力データの質に大きく左右される⁵⁴。
- **代表性:** 特許データは「発明され、特許出願された」技術を反映するが、それが必ずしも「商業的に成功した」技術や、広範な「顧客」が真に求めている要求を代表するとは限らない。解決策が先行し、後から課題を探すような発明も含まれる可能性がある [一般的知識]。

5.2. AI 特有の課題

- **解釈の偏りと精度:** AI が技術的なニュアンスや文脈を完全に理解し、「課題」を「ニーズ」として正確にマッピングできるとは限らない。生成 AI 特有の「ハルシネーション（もっともらしい嘘の情報を生成する現象）」や解釈の偏りにより、不正確な情報や誤った示唆が生成されるリスクがある⁹。AI アルゴリズムの内部動作が不透明（ブラックボックス）である場合、結果の検証が困難になる可能性もある⁷¹。Google NotebookLM が提供情報のみに基づいて回答を生成する設計にしている点は、このリスクを浮き彫りにしている⁵⁴。
- **意味理解の限界:** AI は大量のテキストデータからパターンを学習することに長けているが、単語の共起や意味的類似性を超えて、技術的な文脈や各要素の「真の重要性」を深く理解することは依然として困難な課題である⁹。AI が言葉の意味を本当に理解しているかという「記号接地問題」も関連する⁹。
- **過信のリスク:** ツールが自動生成する情報の利便性から、利用者が専門家による批判的なレビューを怠り、結果を鵜呑みにしてしまうリスクがある。これにより、誤った研究開発の方向性が選択される可能性がある³²。

5.3. 適用可能性とスケーラビリティ

- **産業分野による差異:** 特許出願の慣行や技術の性質は産業分野によって異なるため、Radar QFD の有効性も分野によって変動する可能性がある。例えば、複雑なシステム製品と材料科学では、特許情報の構造や内容が異なり、ツールの適用しやすさや得られる情報の質が変わるかもしれない[疑問点]。現在の公開事例は飲料メーカーと金属メーカーである¹。
- **複雑性の処理:** 多数のニーズと技術要素が複雑に絡み合う製品の場合、生成される品質表が非常に大規模かつ複雑になり、解釈や活用が困難になる可能性はないか[疑問点]。

5.4. QFD プロセス固有の課題

- **他の手法との連携:** QFD は、狩野モデル、FMEA（故障モード影響解析）、TRIZ（発明的問題解決理論）、VE（価値工学）など、他の製品開発手法と組み合わせて用いられることが多い¹⁰。Radar QFD は QFD 表の自動生成に特化しているため、これらの他の手法との連携や統合は、依然として利用者の手作業と専門知識に依存する¹⁰。
- **マトリクスを超えた活動:** 効果的な QFD は、単に品質表を作成することだけではない。部門横断的なチームによる議論、結果の解釈、そして戦略的な意思決定が不可欠である¹⁶。Radar QFD は入力生成を自動化するが、その後の人間系のコラボレーションや判断プロセスを代替するものではない。

- **形式化のリスク:** 自動生成の容易さが、かえって深い戦略的思考を伴わない、形式的な QFD 活動（チェックボックスを埋めるだけのような）を助長する可能性も否定できない¹⁷。

5.5. 分析

Radar QFD の核心的なリスクは、「特許情報に含まれる情報」と「戦略的な QFD に必要な真の情報」との間に存在する潜在的なギャップにあると言える。特許は構造化された豊富な情報源ではあるが、市場や顧客の声を完全に反映する鏡ではない。このギャップを埋めるためには、AI の高度な実装だけでなく、人間の専門家による критический な評価と、他の情報源（市場調査、顧客インタビューなど）との統合が不可欠となる。

6. VALUENEX における戦略的ポジショニング (Q5 への回答)

6.1. VALUENEX 株式会社の概要とコア事業

VALUENEX 株式会社は、ビッグデータ解析ソリューションを提供する企業であり、特に特許情報を含む大量の文書情報を独自のアルゴリズムで解析・可視化することに強みを持つ³。同社のコア技術は、テキストデータの類似性に基づいて情報を俯瞰的な地図（俯瞰図）として表示するもので、これにより研究開発戦略、知財戦略、市場分析など、企業の様々な意思決定を支援している。主力製品は SaaS ツール「VALUENEX Radar」であり、これに経験豊富なコンサルティングサービスを組み合わせたトータルソリューションを提供している³。米国にも子会社（VALUENEX, Inc.）を持ち、東証グロース市場に上場している¹⁴。

6.2. Radar QFD の製品ポートフォリオと事業戦略における役割

Radar QFD は、VALUENEX のコア技術である VALUENEX Radar のアルゴリズムを基盤とし、これに生成 AI を組み合わせて開発された、特定の応用分野（QFD 自動化）に特化したツールである³。

その戦略的な役割は、以下の点にあると考えられる。

- **既存顧客への価値深化:** VALUENEX Radar のユーザーに対し、マクロな俯瞰分析から具体的な研究開発計画に繋がるミクロな分析（ドリルダウン）機能を提供することで、プラットフォーム全体の価値を高める⁷。
- **新規市場・顧客層の開拓:** 従来の俯瞰分析ツールとは異なる切り口で、QFD プロセスに課題を持つ研究開発部門や製品開発部門に直接アプローチする¹⁴。
- **最新技術トレンドの活用:** 生成 AI の能力と市場の関心を活用し、自社サービスの

競争力を強化・差別化する¹。2024 年後半から 2025 年にかけて開発・リリースが進められている点も、このトレンドを捉えた動きと言える²³。

6.3. 他の VALUENEX サービスとのシナジー

最も重要なシナジーは、VALUENEX Radar との連携によるマクロ・ミクロ分析ワークフローの実現である⁷。これにより、全体像の把握から具体的なアクションプラン策定までを一気通貫で支援することが可能になる。

また、VALUENEX が提供するコンサルティングサービスにおいても、Radar QFD が分析ツールとして活用されたり、コンサルタントが顧客企業における Radar QFD の導入・活用を支援したりする可能性がある³。

さらに、VALUENEX が注力する IP ランドスケープ分析、研究開発戦略策定、競合分析といった広範なサービス領域とも連携し、より深い洞察を提供することに貢献しうる⁶⁷。

6.4. 分析

Radar QFD は、VALUENEX が自社のコア技術（俯瞰解析）と最新の生成 AI 技術を融合させ、研究開発部門が直面する具体的な課題（QFD の工数）に対応するために投入した戦略的な製品である。これは、既存の VALUENEX Radar の価値を高める製品拡張であると同時に、QFD という切り口で新たな顧客層を獲得するためのツールとしての側面も持つ。VALUENEX の強みであるテキスト解析能力を、より具体的でアクションに繋がりやすい形で提供しようとする意図がうかがえる。

7. サービスモデルとユーザーエクスペリエンス (Q6 への回答)

7.1. SaaS アプリケーション vs. コンサルティング（受託型）サービス：詳細比較¹

Radar QFD は、利用者のニーズに合わせて選択可能な二つの提供形態を持つ。

- **SaaS モデル（「Radar QFD アプリケーション」）：**
 - **提供形態:** クラウドベースのサービス。利用者が自身でツールを操作して分析を実行する¹。
 - **プロセス:** 利用者が分析対象（技術テーマなど）を設定し、ツール上で分析を実行、結果（品質表など）を生成・確認する。本格導入前にトライアル利用が可能¹。
 - **価格:** 年間契約または月契約のサブスクリプションモデル。具体的な料金は問い合わせが必要¹。

- **適したユーザー:** ツールを直接操作したい、頻繁に分析を行いたい、自社のワークフローに組み込みたい企業。
- **コンサルティングモデル（受託型）:**
 - **提供形態:** VALUENEX が利用者に代わって Radar QFD を用いた分析を実施し、成果物を提供するサービス！。
 - **プロセス:** 利用者が VALUENEX に分析したい技術テーマや目的を伝える。必要に応じて既存のデータ群を提供。VALUENEX が解析を実施し、通常 1～2 週間程度で成果物（課題表、技術表、品質表、品質表スコア LOG 情報）を納品する！。
 - **価格:** プロジェクトベースの料金体系。分析のスコップや複雑性に応じて変動すると考えられ、問い合わせが必要！。
 - **適したユーザー:** 特定のテーマについて一度限りの分析が必要な場合、社内に分析リソースや専門知識が不足している場合、VALUENEX の分析的解釈を含めた成果物を希望する場合。

7.2. 表：サービスモデル比較

特徴	SaaS アプリケーション (Radar QFD Application)	コンサルティング（受託型）
ユーザー操作	利用者自身がツールを操作	VALUENEX が分析を実施
プロセス	利用者による設定・実行・結果確認	要件定義 → VALUENEX による解析 → 成果物納品
主な成果物	利用者がツール上で生成・ダウンロード	課題表、技術表、品質表、スコア LOG 情報など
価格体系	サブスクリプション（月額/年額）	プロジェクトベース
サポート	トライアル時説明、導入後活用支援	プロジェクト前の要件定義、成果物提供

納期/利用開始	即時利用可能（契約後）	通常 1～2 週間（発注後） ¹
理想的なユーザー	定期利用、内製化志向、ハンズオン希望	スポット利用、リソース不足、専門家の分析希望

7.3. オンボーディングプロセスとサポート体制

- **SaaS:** トライアル期間が設けられており、その際には **VALUENEX** のスタッフによる利用方法の説明やサポートが提供される¹。正式導入後も、利用者がツールを活用していくための支援が行われる¹。ただし、具体的なドキュメント提供、オンラインヘルプ、専用サポート窓口の有無など、詳細なサポート体制については公開情報からは不明である¹。
- **コンサルティング:** プロジェクト開始前に、**VALUENEX** との間で分析スコープや期待される成果物についてのすり合わせが行われる¹。サポートはサービス提供プロセス自体に含まれる形となる。
- **共通:** **VALUENEX** への問い合わせは、電話（03-6902-9833）やウェブサイト上の問い合わせフォームを通じて可能である¹。また、ツールの概要やユースケースを紹介するための無料オンラインウェビナーも開催されている⁵。

7.4. ユーザーインターフェースとユーザビリティ（特に非専門家向け）

Radar QFD は、特許の専門家ではない研究開発者でも利用できることを明確な目標としている²⁴。これは、**AI** による一般的な技術用語への変換や、構造化された分かりやすいアウトプット形式によって実現されるとされている³。

具体的なユーザーインターフェース（UI）のデザインに関する情報は、提供された資料からは得られない¹。しかし、基盤となる **VALUENEX Radar** が視覚的な「俯瞰図」インターフェースを特徴としていることから¹⁹、**Radar QFD** も生成された表やスコアを直感的かつ視覚的に操作・理解できるようなインターフェースを目指している可能性が高い。この点は、実際のデモや利用者のレビューを通じて確認する必要がある。

ユーザビリティに関して考慮すべき点は、ツールの操作性だけでなく、生成された **QFD** アウトプットを戦略的に解釈し活用する能力である。特許情報と **QFD** の両方に不慣れなユーザーにとって、単に用語が平易になったとしても、その結果から深い洞察を得るには、依然として一定の知識や思考力が求められる可能性がある。ツールの使いやすさと、その結果を有効活用するための認知的な負荷は、分けて考える必要がある。

8. 今後の開発と市場トレンド (Q7 への回答)

8.1. 既知のアップデートと機能強化（2024 年後半時点）

Radar QFD は比較的新しいサービスであり、2024 年からサービス展開が開始され¹⁴、SaaS 版の提供は 2025 年 4 月 1 日に発表された³。

2024 年 12 月開催のウェビナー案内によれば、直近のアップデートまたは計画中の機能として、以下の点が挙げられている¹⁴。

- 外国語（海外特許）対応
- 技術の用途軸での分析機能
- 発明者分析機能

また、SaaS アプリケーション自体の開発状況についても、同ウェビナーで紹介が予定されていたことから、継続的な機能改善が進められていることがわかる¹⁴。VALUENEX は、Radar QFD 以外にも、VALUENEX Radar向けの生成 AI 要約機能「Area Summarizer」などの開発も進めている²³。

8.2. 将来のロードマップと機能拡張の可能性

具体的な長期ロードマップに関する情報は公開されていない²。しかし、技術トレンドや市場ニーズを踏まえると、以下のような方向性が考えられる。

- **データソースの拡充:** 現在の特許情報中心から、科学技術論文、市場レポート、顧客の声（VOC）データ、社内文書など、より多様な情報源との統合。これにより、より網羅的で精度の高い QFD インプット生成を目指す。VALUENEXは既に特許と論文の融合解析サービスを提供している実績がある²。
- **AI 分析の高度化:** 単なる抽出やスコアリングに留まらず、例えば、特定のニーズやシーズの潜在的なインパクト予測、要求間のコンフリクト検出、あるいは新規性の高い組み合わせの提案など、より高度な分析機能の搭載。
- **コラボレーション機能の強化:** SaaS ツール内でのチームメンバー間の情報共有、コメント付与、意思決定支援といったコラボレーション機能の充実。
- **外部ツール連携:** 研究開発プロセスで利用される他のツール（PLM システム、プロジェクト管理ツールなど）との連携強化。
- **特定産業向けカスタマイズ:** 特定の産業分野に特化した分析テンプレートや AI モデルの開発。

8.3. AI、ビッグデータ、知財情報活用トレンドの影響

Radar QFD の将来は、関連する技術や市場のトレンドから大きな影響を受けると考えられる。

- **生成 AI の進化:** 大規模言語モデル（LLM）の継続的な性能向上は、要約の質、翻訳精度、そしてニーズ・シーズ抽出や関連性スコアリングの高度化に貢献する可能性がある⁵⁴。一方で、AI が生成する情報の信頼性担保や、もっともらしい誤情報のリスク管理は、より重要になる⁹。
- **ビッグデータ統合:** 特許、論文、ニュース、市場データ、社内データなど、多様なデータソースを統合・分析するトレンドは、Radar QFD に対しても、よりリッチなコンテキストを提供するために、特許以外の情報源を取り込む方向へと進化を促すだろう⁷⁵。
- **IP ランドスケープ（IPL）の浸透:** 知財情報を経営戦略や事業戦略に活用する IP ランドスケープの考え方が広まるにつれて⁸⁴、Radar QFD のように、高度な IP 分析と具体的な研究開発計画を結びつけるツールの需要は高まる可能性がある。
- **研究開発効率化への圧力:** 企業における研究開発の生産性向上への要求は根強く、Radar QFD のような自動化・効率化ツールの導入を後押しする要因となる [一般的トレンド]。

8.4. 分析

Radar QFD は、AI やビッグデータといった主要な技術トレンドと、研究開発の効率化や戦略的な知財活用といった市場ニーズの両方に合致しており、良好な市場環境にあると言える。しかし、現在の特許情報中心のアプローチが持つ限界（第 5 章参照）を克服し、競争優位性を維持するためには、継続的な進化が不可欠である。将来的には、より多様なデータソースを取り込み、AI 分析を高度化させることで、単なる QFD 表生成ツールから、より戦略的な洞察を提供するプラットフォームへと発展していくことが期待される。

9. 結論と推奨事項

9.1. 総括

VALUENEX Radar QFD は、同社の持つテキスト解析技術と生成 AI を組み合わせ、特許情報を基に QFD の主要な表（課題表、技術表、品質表）作成を自動化する、意欲的なソリューションである。研究開発プロセスにおける情報収集・整理の効率化を目指し、特に特許集約型の産業において、従来多大な工数を要した QFD の初期段階を支援する可能性を秘めている。

9.2. 客観的評価

- **強み:**
 - 特許情報を用いた QFD 自動化というユニークな焦点。

- QFD 表作成の特定タスクにおける時間短縮の可能性。
- 主力製品 VALUENEX Radar との連携によるマクロ・ミクロ分析ワークフロー。
- 研究開発現場が求める、消化しやすい形での知財情報提供への注力。
- **弱み・リスク:**
 - 市場ニーズの代理情報として特許データに強く依存することの限界。
 - 「開発工数大幅削減」といった定量的効果に関する客観的証拠の不足。
 - AI による解釈の偏りや精度の問題、ブラックボックス性。
 - ツールの自動生成結果に対する人間の専門家による批判的評価と、広範な QFD プロセスへの統合が不可欠である点。

9.3. 提供価値

Radar QFD の価値提案は、特に以下のような組織にとって魅力的であると考えられる。

- 既に特許分析に投資している、または VALUENEX Radar を利用している企業。
- 研究開発プロセスにおける QFD の初期段階（データ収集・構造化）を効率化したいと考えている企業。
- 特許集約型の産業に属する企業。

9.4. 推奨事項

- **導入検討企業向け:**
 - 具体的なプロジェクトを対象としたパイロット導入またはトライアルを実施し、その有効性を評価する¹⁾。
 - AI が生成した課題（ニーズ）や技術（シーズ）の質と妥当性を、社内の専門知識や他の市場情報（顧客調査など）と照らし合わせて批判的に検証する。
 - ターゲットとする社内ユーザー（研究開発者、知財担当者など）にとっての実際の使いやすさ（UI/UX、解釈の容易さ）を評価する。
 - 本ツールを完全な QFD 代替ソリューションとしてではなく、QFD プロセスを加速するための「インプット生成ツール」として位置づける。
 - 社内のリソースや利用頻度に基づき、SaaS モデルとコンサルティング（受託型）モデルのどちらが最適かを慎重に比較検討する¹⁾。
- **VALUENEX 向け:**
 - ツールの効率性に関する主張を裏付ける、定量的なデータを含む導入事例を公開する。
 - （知財権保護の範囲内で）AI の分析手法に関する透明性を高め、利用者の理解

と信頼を促進する。

- 特許情報以外のデータソース（論文、市場レポート、VOC など）との統合を検討し、QFD インプットの質と網羅性を向上させる。
- AI の精度とニュアンス理解能力を継続的に改善する。
- Radar QFD を包括的な QFD ワークフローに効果的に組み込むための、ベストプラクティスやガイドラインを開発・提供する。

引用文献

1. Radar QFD |技術とニーズの可視化で商品開発を支援 — VALUENEX株式会社, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.valuenex.com/radar -qfd>
2. VALUENEX 新ツール「Radar QFD」発表 – AI で Quality Function Deployment (QFD) を支援し、製品開発を加速 - PR TIMES, 4月 18, 2025 にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000032.000028558.html>
3. VALUENEX 新ツール「Radar QFD」発表 – AI で Quality Function Deployment (QFD) を支援し、製品開発を加速, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.valuenex.com/jp/news -list/2025/qfd -saas-release>
4. Radar QFD |イプロスものづくり, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://mono.ipros.com/product/detail/2001514493/>
5. VALUENEX 新ツール「Radar QFD」発表, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://finance.stockweather.co.jp/contents/dispPDF.aspx?disclosure=20250331504055>
6. VALUENEX 新ツール「Radar QFD」発表 - AI で Quality Function Deployment (QFD) を支援し、製品開発を加速 (2025 年 4 月 1 日) - エキサイト, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025_-04-01-28558-32/
7. 生成 AI で開発現場の特許情報活用を劇的に変える！ SaaS型解析ツール「Radar QFD」のご紹介 | VALUENEX【公式】 - note, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://note.com/valuenex/n/nc2c8e907eff2>
8. AI・IoT 技術の時代にふさわしい 特許制度の在り方について, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/zaisanken -seidomondai/2020_02_yoyaku.pdf
9. 生成 AI の特許を徹底分析：圧倒的強さの米国！ TPA（特許資産）では韓国・日本が 2 位・3 位競う ～大規模言語モデルでスケールする未来 - アスタミューゼ, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.astamuse.co.jp/report/2023/230727 -gai/>
10. QFD（品質機能展開）とは？顧客目線の品質管理と製品企画 | Koto Online, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.cct -inc.co.jp/koto -online/archives/327>
11. QFD（品質機能展開）とは？ | 製品・技術開発にどう活用できるのか？ - 株式会社アイデア, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://idea -triz.com/solution/what -is-qfd>
12. Radar QFD のページを公開しました — VALUENEX株式会社, 4 月 18, 2025 にア

- クセス、 <https://www.valuenex.com/jp/news-list/2024-radar-qfd>
13. R&D 関係者必見！特許情報を用いた製品品質向上セミナー — VALUENEX 株式会社, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://www.valuenex.com/jp/events-list/2024/product-quality-seminar>
 14. 技術開発向けの調査を根底から変える！Radar QFD の概要と応用例の紹介 - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000030.000028558.html>
 15. 技術開発向けの調査を根底から変える！Radar QFD の概要と応用例の紹介 - ジョルダン, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT000030A000028558>
 16. 「QFD-Advanced」は形式知化・組織知化を可能にする進化型 QFD - 製造業 DX の電通総研, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://mfg.dentsusoken.com/blog/detail/001262.php>
 17. QFD の現状と課題：製造業における品質管理手法の再考, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://www.plan-sc.com/qfd%E3%81%AE%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%81%A8%E8%AA%B2%E9%A1%8C%EF%BC%9A%E8%A3%BD%E9%80%A0%E6%A5%AD%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E5%93%81%E8%B3%AA%E7%AE%A1%E7%90%86%E6%89%8B%E6%B3%95%E3%81%AE/>
 18. 技術開発向けの調査を根底から変える！Radar QFD の概要と応用例の紹介 - valuenex, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://www.valuenex.com/jp/events-list/2024/radar-qfd-seminar>
 19. 特許情報を研究開発の現場で使える粒度へまとめ上げる - よろず知財戦略コンサルティング, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://yorozuipsc.com/blog/7398974>
 20. VALUENEX が新開発支援ツール「Radar QFD」を発表、製品開発の未来を切り開く, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://news.3rd-in.co.jp/article/44916e66-0e87-11f0-b995-9ca3ba083d71>
 21. VALUENEX Radar | 技術戦略を支援する可視化ツール, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://www.valuenex.com/jp/valuenex-radar>
 22. 2025 年 7 月期第 1 四半期決算補足説明資料, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20241210/20241210536150.pdf>
 23. 2024 年 7 月期 決算補足説明資料, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20240913/20240912584091.pdf>
 24. 【社員インタビューVol.14】ビジネスデザイン室 山口幹夫さん | VALUENEX【公式】 - note, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://note.com/valuenex/n/nf7458494db37>
 25. 特許調査システムを徹底比較！導入事例や費用・料金 - 集客・広告戦略メディア「キヤククル」, 4 月 18, 2025 にアクセス、 <https://www.shopowner-support.net/hr/personnel-recruitment/manufacturing-industry/patent-search-system/>

26. 特許検索に AI は効果的？調査の概要や LLM を活用するメリット、導入事例を徹底解説！, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://ai-market.jp/technology/llm-patent-search/>
27. 知財管理システム比較 13 選。メリットや機能、タイプ別の選び方 | アスピック, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.aspicjapan.org/asu/article/31494>
28. AI を活用して特許調査の負担軽減！仕組み・解決できる課題とは？ - Aismiley, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://aismiley.co.jp/ai-news/what-is-a-patent-search-mechanism-using-ai/>
29. 特許情報から見た生成 AI の技術動向と 今後の展望と課題, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2023book/23_3_02.pdf
30. 特許文書作成 AI サービスの詳細分析と比較, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/19bc4f1da0c0e2e3d76c.pdf>
31. 生成 AI 活用特許分析ツールの比較分析： - よろず知財戦略コンサルティング, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/34eff7c02387c7ab46b1.pdf>
32. LLM) を活用した特許情報分析のポイント Part6 (Chat-GPT Deep research との合作) - note, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://note.com/yu_py/n/na23e6c4375eb
33. 知的財産法における AI の影響 - CHIP LAW GROUP, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.chiplawgroup.com/%E7%9F%A5%E7%9A%84%E8%B2%A1%E7%94%A3%E6%B3%95%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E3%81%AE%E5%BD%B1%E9%9F%BF/?lang=ja>
34. (株)エムニ | DXPO, 4 月 18, 2025 にアクセス、[https://dxpo.jp/real/fox/nagoya25/sales/product.html?supplier_id=1469&company_name=\(%E6%A0%AA\)%E3%82%A8%E3%83%A0%E3%83%8B](https://dxpo.jp/real/fox/nagoya25/sales/product.html?supplier_id=1469&company_name=(%E6%A0%AA)%E3%82%A8%E3%83%A0%E3%83%8B)
35. 株式会社エムニ, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.emuniinc.jp/>
36. ベンチャー会員 活動実績一覧 (2024 年 8 月分) 【五十音順】 - 未来共創イニシアティブ, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://icf.mri.co.jp/wp-content/uploads/2024/09/icf_mn_202408.pdf
37. 株式会社エムニ - 出展社詳細, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.manufacturing-world.jp/nagoya/ja-jp/search/2025/directory/directory-details.%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE%E3%82%A8%E3%83%A0%E3%83%8B.org-f42580c4-e71d-4d7c-a3c9-934dd62e6501.html>
38. 令和 2 年度補正予算 小規模事業者持続化補助金<コロナ特別対応型> (第 3 回受付締切分) 採択者一覧表 - ※重要, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://jizokukahojokin.info/saitaku/r2corona/yoshiki/r2c_3_kansai.pdf
39. 03 月 - ASCII.jp : アーカイブページ, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://ascii.jp/archive/top/202503/>
40. 10 月 - ASCII.jp, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://ascii.jp/archive/biz/202410/>
41. 【京大発・松尾研発スタートアップエムニ】ファインチューニングを用いた特許翻訳特化型 LLM の開発において、GPT-4o や翻訳モデルを凌駕する性能を達成 -

- PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000134983.html>
42. Startup JAPAN 2025 | スタートアップ業界 日本最大級の展示会 - Eight のビジネスイベント, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://eight-event.8card.net/climbers/startup-japan/>
43. ニュース - 一般社団法人日本量子コンピューティング協会, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://jqca.org/news.php?id=5364081957>
44. 特許情報解析において生成 AI（大規模言語モデル）が可能にしたこと | 大瀬 佳之 / Ose Yoshiyuki, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://note.com/ose_yosshy/n/n96a4e8b683a6
45. 特許読解 AI アシスタント「サマリア」が第 37 回「中小企業優秀新技術・新製品賞」のソフトウェア部門『優良賞』を受賞 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000086119.html>
46. 特許読解 AI アシスタント「サマリア」が第 37 回「中小企業優秀新技術・新製品賞」のソフトウェア部門『優良賞』を受賞 - BIGLOBE ニュース, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://news.biglobe.ne.jp/economy/0416/prt_250416_3619676993.html
47. 特許読解アシスタント「サマリア」に知財実務を支援する革新的な 3 つの機能が追加【サービス無料提供中】 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>
48. AI による特許文書からの成分抽出（サマリアの用語抽出機能） | 大瀬 佳之 / Ose Yoshiyuki - note, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://note.com/ose_yosshy/n/n5c53fc1b19a6
49. アカウント登録 | 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - YouTube, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=PjCr8Eo5DMc>
50. サマリアのご紹介 - 株式会社知財の楽校, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.patentamuse.com/articles/recommended-sites-summaria/>
51. サマリア(Summaria) | 特許文書読解支援サービス, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://patent-i.com/summaria/manual/>
52. 特許読解 AI アシスタント「サマリア」を特許翻訳で活用する(転載) | 大瀬 佳之 / Ose Yoshiyuki, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://note.com/ose_yosshy/n/n336bfcf740b4
53. Patentfield | AI 特許検索・特許分析・特許調査データベース, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://patentfield.com/>
54. AI を用いた効率的な特許調査方法, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2024book/24_4_04.pdf
55. 【2/28 展示】効率的な特許調査・分析を支援する AI 特許総合検索・分析プラットフォーム, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://ascii.jp/elem/000/004/245/4245492/>
56. 生成 AI が特許をシンプルに。Patentfield AIR の無料トライアル受付開始 - PR

- TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000051.000025380.html>
57. Patentfield AIR 生成 AI 調査・分析オプション, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
58. 生成 AI が変える特許調査・分析 Patentfield AIR | CONFERENCE | CEATEC 2024 Toward Society 5.0 公式サイト, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.ceatec.com/ja/conference/detail.html?id=2765>
59. 「AI 特許総合検索・分析プラットフォーム Patentfield」および「Patentfield AIR」に対する 4 件の特許権に基づく 6 件の特許権侵害訴訟提起のお知らせ (3) | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000086119.html>
60. AI Samurai の紹介 - LEGAL TECH INDEX, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.legal-tech.jp/2021/01/31/239/ai-samurai%E3%81%AE%E7%B4%B9%E4%BB%8B.html>
61. AI 特許文書作成支援サービス比較レポート — 「TOKKYO.AI」 「AI Samurai」 「アッピエンジン」 「ユアサポ AI」 の技術と - よろず知財戦略コンサルティング, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/6d203dddf3e173d61aa8.pdf>
62. 特許申請支援システムの「株式会社 AI Samurai」, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://aisamuraico.jp/>
63. 株式会社 AI Samurai、発明創出をバックアップする-AI 搭載特許審査, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<http://archive.ceatec.com/2019/news/ja-webmagazine/012>
64. みんなの特許 | 特許調査支援システムの「株式会社 AI Samurai」, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://aisamuraico.jp/minnano-tokkyo/>
65. 難しい特許出願を法律の専門家と AI 技術でかんたんに！ AI Samurai は新サービス『みんなの特許』を開始します。 - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000247.000021559.html>
66. 特許調査を 13900 円(税別)で提供する『AI Samurai Slash』サイトを開設しました！ - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000093.000021559.html>
67. お客様活用事例>株式会社ブリヂストン様 ご講演資料に当社サービスを活用した成果の一部を掲載 - valuenex, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.valuenex.com/jp/news-list/casebridgestone-190611>
68. 「インフラ維持管理・更新等の社会課題対応システム 開発プロジェクト」 事業原簿【公開】 - NEDO, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.nedo.go.jp/content/100803389.pdf>
69. パソナナレッジパートナー — VALUENEX 株式会社, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.valuenex.com/testimonial/pasona-knowledge-partner>
70. 人工知能を利用した特許情報分析等の有効性に関する調査実証研究報告書, 4 月

- 18, 2025 にアクセス、<https://www.jpo.go.jp/resources/report/chiiki-chusho/document/r5-chusho-shien-bunseki/report.pdf>
71. 知財 DX2023 知財業界における AI 活用 の行方 ～開発・普及の現状と課題、近未来像を考える, 4 月 18, 2025 にアクセス、https://pifc.jp/2023/wp-content/uploads/2023/09/pifc_forum1_005.pdf
72. 類似特許分析にみる、特許分析への AI 活用 の現状と可能性 - 日本特許情報機構, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://japio.or.jp/00yearbook/files/2019book/19_a_07.pdf
73. 「QFD、TRIZ（発明的問題解決理論）、タグチメソッドがどうして簡単に使えないのか」に反論する（生成 AI の登場）, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://tech-d.blogspot.com/2025/02/qfdtriz.html>
74. QFD による製品開発の革新：製造業が直面する課題と解決策 - newji, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://newji.ai/procurement-purchasing/innovation-in-product-development-with-qfd-challenges-and-solutions-in-the-manufacturing-industry/>
75. 特許技術と研究論文の俯瞰解析を行う無料セミナーを開催 - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000028558.html>
76. 事業計画および成長可能性 に関する事項について, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20241021/20241016598687.pdf>
77. 2025 年 7 月期 第 2 四半期 決算補足説明資料, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20250312/20250310591015.pdf>
78. IR — News — VALUENEX 株式会社, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://www.valuenex.com/jp/news-list/category/IR>
79. 導入事例一覧 | VALUENEX の活用事例とお客様の声 — VALUENEX 株式会社, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://www.valuenex.com/testimonials-all>
80. 簡単に社内で解析結果を共有できる VALUENEX Radar アプリの提供を開始 - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000028558.html>
81. 俯瞰解析を効率化する生成 AI を VALUENEX Radar に搭載 - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000025.000028558.html>
82. 文京ロードサービスに関するプレスリリース・ニュースリリース - PR TIMES, 4 月 18, 2025 にアクセス、
https://prtimes.jp/main/action.php?run=html&page=searchkey&search_word=%E6%96%87%E4%BA%AC%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9
83. VALUENEX Radar Fusion: 論文と特許を融合した技術動向分析の新時代 - Hashtag — Bluesky, 4 月 18, 2025 にアクセス、<https://bsky.app/hashtag/VALUENEX>
84. LLM) を活用した特許情報分析のポイント Part5 (Chat-GPT Deep research と

の合作) - note, 4 月 18, 2025 にアクセス、
<https://note.com/yupy/n/n5642b7d3a0a1>